

冬みち地域連携事業補助業務 特記仕様書

1 業務目的

本業務は、地域の除排雪における課題の解決に向け、地域力を組み合わせて地域の実情に沿った各種取組を展開する「冬みち地域連携事業」において、事業を遂行するための補助を行うものである。

≪「冬みち地域連携事業」における本業務関連の取組≫

(1) 小学生を対象とした雪体験授業の実施

将来のまちづくりを担う子どもたちが札幌の雪対策や冬の暮らしに関心を持ち、除雪に対する意識が浸透するよう、小学生を対象とした雪体験授業[※]を実施する。

※「雪体験授業」とは、職員が除雪について説明する出前授業（従来型の出前講座の小学生版）に加えて、除雪機械の試乗体験や通学路の危険箇所のマップ作りといった体験学習を併せて行う総合学習である。

2 業務内容

≪雪体験授業補助≫

(1) 業務内容

1) 雪体験授業の企画・準備

- ・雪体験授業全体の流れと内容の企画立案、資料作成支援及び準備を行う。

2) 体験学習の実施

- ・当日の運営に関する事前打合せ（小学校との事前打合せにも同席）を行う。
- ・体験学習の運営として授業における準備、写真やビデオの撮影、意見や質問の記録、体験学習（通学路の危険箇所マップの作成等）の補助、片付けなどを行う。
- ・体験学習の実施に係る補助員数は下表を標準とする。

| | | | |
|-----------|----|----------|----|
| 出前講義 | 2人 | 冬みちマップ製作 | 4人 |
| 試乗・砂ペット | 2人 | 高齢者除雪体験 | 6人 |
| 試乗のみ | 2人 | ゆきだるマン製作 | 3人 |
| 砂撒きボランティア | 4人 | | |

3) 体験学習用マップ作成

- ・体験学習における通学路の危険箇所マップ作成で使用する通学路線、除雪路線、信号などの主要施設等を網羅した通学区域の現況マップデータ（素図）の作成を行う。
- ・マップの規格はA0判、縮尺は概ね1/500～1/1,000を標準とし、グループ数分を用意する。

4) 配付用マップ作成

- ・雪体験授業の実施後に、子供たちが作成した通学路の危険箇所マップを回収し、編集したもの（清書版）を同校に配付するため作成を行う（実施後7日以内を目標とする）。
- ・マップの規格はA0判、縮尺は概ね1/500～1/1,000を標準とし、グループ数分を用意する。

5) ニュースレター作成（マップ掲載なし）

- ・雪体験授業の実施後に、授業内容を小学校に報告・配布するためのニュースレター「冬みち通信（案）」を作成する。

- ・ニュースレターの作成は、雪体験授業の実施直後、速やかに行う（実施日翌日までを目標とする）。

6) 雪体験授業実施補助員

- ・雪体験授業の運営として、人員が不足する場合に準備補助、意見・質問の記録、授業実施状況の記録、スクールゾーン危険箇所マップの集約版の作成やその他の体験授業の補助、片付け補助などを行う。

(2) 実施内容

- 1) 実施校及び開催日時等は、別紙のとおり（今後、変更が生じる可能性あり）。

(3) 成果の報告

- 1) 授業の記録や資料等を取りまとめ、報告書を作成する。
 - ・授業の記録等：グループごとの懇談内容、懇談状況、危険場所マップなど
 - ・資料等：業務で使用又は作成した資料、業務主任等との打合せ記録簿など
- 2) 報告書は製本1部、CD-R・DVD-R等2枚とする。

3 その他

(1) その他

- ・業務主任又は業務員との業務打合せ後は、打合せ記録簿を作成すること。
- ・報告書は可能な限り再生紙を使用すること。
- ・本業務において写真やビデオの撮影をする際は、個人を特定できないよう撮影を行うこと。また、意見や質問の記録を行う際も、氏名等個人を特定できる内容を記録しないこと。
- ・受託者は、本業務に関する事項及び作業上知り得た一切の事項について、これを外部に漏洩及び転用してはならない。また、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。
- ・疑義が生じた場合及びこの仕様書に定めのない事項については、本市との協議により、定めるものとする。

